

科 目 名	SS 数学 I	理数科必修 1年次・5単位
目 標	数と式, 2次関数, 図形と計量, データの分析および, 場合の数と確率, 図形の性質, 数学と人間の活動の 関わり, について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習得を図り, 事象を数学的に考察する能力を培 い, 数学のよさを認識し活用できることを目標とする。	
位 置 づ け	次年度以降の全員必修「数学Ⅱ」、理系進学者向け「数学Ⅲ」につながるだけではなく、数学的な考え方 を日常の場面でも利用できるようになる事が必要です	

■使用する教材 ・教科書 NEXT 数学 I (数研出版) NEXT 数学 A(数研出版) ・問題集 CONNECT 数学 I + A(数研出版) ・参考書 新課程チャート式 解法と演習数学 I + A(数研出版) ・過去の模擬試験問題 ・自作プリント ほか		■学習する単元とおおよその時期 数学 I の分野 ・数と式【4～5月】 ・2次関数【6～9月】 ・図形と計量【10～12月】 ・データの分析【1～2月】 数学 A の分野 ・場合の数と確率【4～9月】 ・図形の性質【10～12月】 ・数学と人間の活動【1～2月】	
■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法 既習内容を発展させ理解を深める。新しく出てくる 概念や定義・定理を理解する。問題解決のための方 針をたて、次時で扱われる内容を予習しておくこと が望ましい。授業後の復習や演習も十分に行うこと。			

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	各単元における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 図形の性質, 場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と人間活動の関係について認識を深める。 数学を用いて処理したり, 数学的に解釈し表現したりする技能を身に付けるようにする。	- 数や式を目的に応じて変形する力 - 図形の性質や計量を論理的に考察し表現する力 - 関数関係に着目し数式で表現しつつ、グラフに関連付けて考察する力 - データを適切な手法で分析し、傾向や問題解決の糸口を見つけ出す力 - 図形の性質を見だし、論理的に考察する力 - 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力 - 数学と人間の活動との関わりに着目し、数理的に考察する力	下記の姿勢や態度が充分身についている ・数学を活用できる場面がないか常に意識し、論理的に思考しようとする態度 ・自らの思考による問題解決の過程を振り返り改善点を模索する姿勢
	B 上記が理解、認識できる。	上記の力が身についている	上記が身についている
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	定期考査、単元テスト 小テスト 課題の提出内容	定期考査、単元テスト 授業中の発言内容	授業中の参加態度 課題の提出状況

